



議会だより



**ホヤホヤ (さいの神)
無病息災を願って**

下関地区の子ども会で (1月7日)

- 11月、12月 臨時会議 2 ページ
- 議員活動報告 4 ページ
- 村民の声 **横山卓也さん**
「これからの未来を生きる子どもたちのために」 6 ページ



平成29年 関川村議会 12月定例会議は行わずに 臨時会議として開催されました。

(一般質問はおこないませんでした。)

11月(第5回)臨時会議
11月9日

11月(第6回)臨時会議
11月24日

12月(第7回)臨時会議
12月4日～6日

- ・提案された議案はすべて原案のとおり全会一致で可決されました。
- ・平田村政の最後の議会となった12月6日の行政報告で「木質バイオマス発電事業」については新村長に事業の継続を引き継ぐとの表明がありました。

(第5回) 臨時会議 (11月9日)

専決処分

・下越障害福祉事務組合の規約の一部の変更
障害福祉施設の新設移転に伴い「いじみの学園」から「中井さくら園」に名称変更するものです。

一般会計補正予算

衆議院議員総選挙に伴い選挙費として
700万円の追加

行政報告

・木質バイオマス発電事業(株)パワープラント関川に貸し付けている3000万円は、返済期限までに返済されなかったため村から督促状を发出し、早急な回収に向けて努力をしている。



関川いきいきほ〜む

(第6回) 臨時会議 (11月24日)

条例の一部改正

・関川村社会福祉センターが新築移転され新施設の名称が「関川いきいきほ〜む」になりました。名称変更に伴う改正です。

・わかぶな高原スキー場について
スキー場用地の賃貸契約については全員の同意が得られるように努力を続けている。

一般会計補正予算

・社会福祉費
24万円の追加
・関川村社会福祉センターの管理費等です。

・総務管理費
135万円の追加
・沼集落の土地購入費用
80万円等です。

(第7回) 臨時会議 (12月4日～6日)

一般会計補正予算

■歳入歳出
1740万円を追加し
総額5億2900万円
としました。

・社会福祉費
235万円の追加
関川村戦死病没者名簿及び戦争体験記録集の発行補助金90万円等です。

条例の制定

■農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数に関する条例

農業委員会制度改正のポイント！

- ① 農業委員会の役割が「農地等の利用の最適化の推進」として強化されました。
- ② 農地利用最適化推進委員が設置されます。
- ③ 農業委員の選出方法が変わりました。 公選制 → 任命制
※農業委員の選出方法は、公職選挙法に基づくものから市町村長が議会の同意を得て任命する方法になりました。
※農業委員の過半数は認定農業者である事が求められるほか、女性や青年の登用を促進します。

行政報告

平田村長から木質バイオマス発電事業について

村の主要な歳入である村税や地方交付税が減少の一途をたどっていることから公共施設の維持や行政サービスとの維持が困難となることは明らかである。

その対策として本事業は雇用の確保や林業の振興と共に歳入の増加を目指すことを目的と考えている。

事業主体である株パワープラント閔川は事業資金をアメリカからの融資に頼っているが今日の時点でもまだ入金はなく事業の進展はない状況にある。

しかしながら本事業を新しい村長への負担を極力少ないかたちで引き継いでいきたい。

報告に対して、7名の議員から事業計画、貸付金の回収等についての質疑があった。

常任委員会での

クエスチョン

Q & A

アンサー

Q、消防団機能別団員はどのような活動をするのか。

A、今年で3年目となりますが、団員定数は幹部を除き120名です。

女性部、防災部、自主防災支援部の3部からなり第4分団に所属します。

訓練は、年1回、水防訓練に参加し、炊き出しや土の積み・水防工法などの後方支援を行っています。



水防訓練での女性部団員

Q、農業委員会委員及び農地利用最適化推進委員の月額報酬の他に年額で支払われる報酬の内容は。

A、農地利用最適化推進委員が関わって農地集約と遊休農地解消の活動実績や成果実績に応じて加算するもので、村長が別に定めるものですが、国からの指導等に基づいて計算することになると思います。

Q、農業委員に女性や青年の任命を促進していくために検討していることはあるか。

A、農業委員については自薦他薦を問いませんが、公募であることが第一であり、女性や青年が候補者となることを期待しています。

Q、農地の貸し借りに必ず推進委員が関わるような仕組みにするよう、この制度導入時に留意しなければならぬのでは。

A、農業委員会で十分話し合っただけで実際の面で効果が上がるようにすすめるべきだと思いますし、ルールを決めて農業の底上げをし、耕作放棄地を出さない工夫をしていくのではないかと期待しています。

Q、村菌床しいたけ生産者協議会の組織はどのようなになっているのか。

A、平成6年に菌床しいたけを導入するにあたって生産者の横のつながりを持つために閔川村菌床しいたけ生産者協議会を立ち上げ、

その時に栽培を始め、現在も栽培している人が皆会員です。



菌床しいたけ

Q、中学校費の臨時雇用賃金に部活動の時間外勤務手当を含んでいるとの説明があったが、部活動専門に雇用するのか。

A、音楽の先生について、県が非常勤講師を配置し週約7時間分の賃金を負担しているが、実際は常勤で勤務しており、県負担の残部分を村が負担しています。

放課後や土・日曜日の部活動に勤務した場合については代休ではなく時間外勤務手当を支払う必要があり、補正するものです。

関川村 建設業協会との 意見交換会

平成29年11月28日に関川村建設業協会の方々と議員との意見交換会を行いました。

建設業に係わるものから村政全般まで多岐にわたる多くの意見要望等がありました。

【主なものとして】

■年度初めの4月に発注がなく建設業にとって天候のよい時期に現場作業に従事できないのが現状である。2月または3月に債務負担行為というかたちで年度初めから年間事業の平準化ができないか。
■毎年集落から行政要望が



建設業協会との意見交換会

提出されているが一向に実現できていないのが現状である。要望内容を議会側でも掌握しているのか。
■冬期間、荒川河川敷の排雪場を村で運営管理をやってもらえないか。

意見交換会での内容は平成29年12月4日に開催された産業建設常任委員会において、村長並びに建設環境課長の同席のもとで村の実状を確認し、改善策について協議しました。

(文責 高橋正之)

霧出地区住民アンケート 調査結果の報告会に 参加しました。



アンケート分析結果の報告

今まで特別委員会だった広報委員会を常任委員会に再編しました。名称は議会の広報常任委員会です。議会の発行のみを担ってきた委員会に、村民の声を聴いて廻る役割を足したものです。より身近な皆さまの声を聞いていきたいと考えています。その一端として、今回霧出地区と七ヶ谷地区で行われた中学生以上全員アンケートの報告会に各議員を派遣しました。広報委員会は委員のみの広聴ではなく全議員が取り組むべき

広報広聴活動の計画交渉等を担います。

今回の報告会はまさしく村民の生の実感を聴くことができるものとして取り組みました。報告会は霧出地区三回、七ヶ谷地区一回、計四回行われました。どちらも都岐沙羅パートナーズセンター事務局長の齋藤主税氏の人口構成、アンケート結果の分析ののち参

加者でワークショップを行いました。分析結果をどう思うか、対応するためには何をどうすればよいのか、真剣な議論が交わされました。両地域の報告会の回数が違うのは霧出地区が県の地域話し合い事業の認定を受けたからです。

出て来た課題はまさに議員活動の指針となる課題でした。今後両地域でさらに話し合いを進め地域課題の解決を目指して欲しいと思います。(文責 近良平)



グループに分かれ真剣な議論

小国町議会との議員交流会



講演に先立ち議長による歓迎の挨拶

平成29年10月20日、本村を会場に関川村議会と山形県小国町議会の議員交流会を開催しました。

今回は両町村に関係する重要な事業である地域高規格道路 新潟山形南部連絡道路 国道113号鷹ノ巣道路整備事業について講演会と現地視察を行いました。

地方整備局羽越河川国道事務所工務第二課長 蓑和保男様から「鷹ノ巣道路の事業概要及び進捗状況について」と題して講演していただきました。概要を報告します。

1. 「新潟山形南部連絡道路」は、日本海沿岸東北自動車道と東北中央自動車道とを接続する約80kmの地域高規格道路。現在までに10.8km供用し、12.2km（鷹ノ巣道路、山形県側の梨郷（りんごう）道路）で事業進行中。

2. 関川村から小国町までの間、約12kmについて、平成26年度より計画段階評価に着手。

3. 鷹ノ巣道路の平成29年度事業概要は、改良工（下川口、大内測、沼地内）、橋梁下部工（大内測地内の一号橋梁）、環境調査、構造物設計を実施中。事業進捗率は3月末現在で約34%、用地進捗率は100%ですとの説明がありました。

講演会の後は、現地へ移動し、大内測地内の一号橋



現地で作業担当者による説明

梁の建設現場を視察しました。一号橋梁はJR米坂線の上をまたぐように架けられるため、橋の工事は線路上空や線路に近接して行われ、施工期間は平成33年度までの6年間ですとの説明がありました。

この交流会は、本村と小国町が毎年交互に会場と交流会のテーマを担当して開催しています。両町村とも議員数が10名であること、山間地を抱えていることなど、共通点が多く貴重な意見交換の場となっており、今後も継続していきたいと思えます。

（文責 伊藤敏哉）

首都圏在住

村人会

平成29年11月26日（日）

第36回首都圏在住関川村人会総会・交流会に議会側から近良平議長・平田広副議長に加え私自身、初めて参加をさせて頂きました。

交流会について私なりに感じ、思ったことについて述べさせて頂きます。

参加者は70人程度で年々減少しているとのことですが、また、村人会の高齢化が進んでいるようにも感じました。できるだけ早く若い世代の加入促進を考える時期でもあると痛感しました。

一方、酒宴・懇談の席では先輩・後輩の壁もなく話が弾み有意義であったほか、同級生7名からは、テーブル移動を含め大変な気配りで、私の席の前にはいつの間にか数個のコップが並び、温かな歓迎を受け新たな感動を覚えた次第です。

酒宴も佳境にはいり、ア

トラクションとして関川流喜っ喜大会・ミニ大蛇パレードが披露されたいへん盛り上がりました。

最後に、村人会がどのような意味を持つかを考えたとき、首都圏在住の人と関川村民との交流会を促進することによる活発な意見交換を行う事であり、村発展の起爆剤となることを願います。

村民の更なる参加を望み、今後も是非参加したいと考えています。

（文責 高橋忠夫）



アトラクションでミニ大蛇が

村民の声

これからの未来を生きる 子どもたちのために

よこ 横 山 卓 也 さん
(打 上)



今年度4月より、関川小学校に勤務させていただいております。明るく、元気の良い子どもたちとともに毎日を楽しく過ごしています。さて、ここ数年、こんな話をよく耳にします。「2011年度にアメリカの小学校に入学した小学生のおよそ65パーセントは、大学卒業後、今は存在しない職業に就くだろう。」これは、ニューヨーク市立大学大学院のセンター教授、キャシィ・デビッドソン氏が2011年8月のニューヨークタイムズのインタビューで語った予測です。

その背景には、AI（人工知能）の普及により、社会構造が大きく変化するという予測があります。今存在する職業の約半数がAIによって自動化される時代が来ると言われています。このことはつまり、社会が劇的に変化し、予測不可能な未来が子どもたちを待ち受けていると言っているようにも思えます。

しかし、どんなに予測不

可能な未来が訪れようとも人が人を育てるとい教育の本質が変わることはありません。AIが普及する世の中になればなるほど、人の心の温かさやぬくもりといったものを人との関わりの中で学んでいくことが子どもたちにとって、より重要になっていくと考えます。

これまで以上に地域と学校が一体となり、さまざまな関わりの中で、子どもたちを育てていくことが望まれます。私自身も今後、地域の一員として、関川村の子どもたちの未来のためにできることに取り組んでいきたいと考えています。

小学校では、図書館ボランティアや読み聞かせボランティア等、多くのボランティアの皆様からご協力をいただいています。子どもたちが基礎学力を確実に身に付けるお手伝いをしていただく学習ボランティアを現在募集しています。関心をおもちの方は、ぜひご連絡をいただければと思います。



未来を担う子どもたち



関川小学校

編集後記

新しい村長に加藤弘氏が就任し新年が始まりました。新村長の新しい村づくりに向ける熱意のもとに村の抱える多くの課題をつぶさに検証し、思いを実現してもらいたい。

議会としてもより緊張感を持ってその役割を果たす覚悟でいます。

平成30年が村民皆様方にとって良い年になることを御祈念申し上げます。

(鈴木)

次の議会定例会議は

3月8日(木)

大勢の傍聴を

お待ちしております。

議会広報常任委員会

委員長 鈴木万寿夫
副委員長 高橋 忠夫

伊藤 敏哉
加藤 和泰
近 良平
高橋 正之